

地域活動助成事業報告

平成 26 年 4 月

《発行》うるま市企画課

うるま市みどり町一丁目 1 番 1 号

TEL : 098-973-5005

MAIL : kikaku-ka@city.uruma.lg.jp

うるま市では、地域が主役のまちづくり、協働のまちづくりに向けた市民の意識の高揚と市民参画を図ることを目的とした「うるま市地域活動支援助成事業」を実施し、うるま市において自治会や NPO、ボランティア団体などが実施する主体的、公益的な地域活動を支援しています。

平成 25 年度は 15 団体が地域活動助成事業の認定を受け地域活動に取り組みました。

各団体の活動実績報告

①長寿復活作戦！～あんだうとうち んかしむどうら～【うるま市食生活改善推進協議会】

うるま市食生活改善推進協議会は健康づくりのため、食生活をとおして健康で文化的な生活の維持・向上を図ることを目的として活動しています。

2013 年、沖縄県の平均寿命は全国で女性 3 位、男性 31 位。肥満率は男女とも全国ワースト 1 位となってしまいました。

かつての伝統的食文化を普及・継承することで長寿県沖縄を復活させよう！「あぶら（油・脂肪）を落として昔に戻ろう」を目標に勉強会、レク、の開催し、それをもとに会員によるミニ講話（沖縄の食文化



の移り変わりと健康課題）伝達講習会を行いました。

今回の事業で中部農林高等学校への成分分析協力や、伝達講習会の参加者呼びかけ等を自治会長等にも協力していただくなど、地域間での協力体制の取り方も学ぶことが出来ました。また、受講生を募集する時の方法や開催の時期などの課題に気づくことも出来ました。



今後も新しいメニューの開発や地域と協力した活動をアピールし、多くの市民に健康によい料理を普及したいと思います。

②天願小学校校区地域づくり 2013【天5の会】

天願小学校校区の 5 自治会（宇堅・天願・みどり町一・二・三四・五六丁目）が校区内の環境整備をはじめ、青少年育成支援などの活動をとおして、校区内の地域コミュニティ活性化に寄与しようと結成されたのが天5の会です。

清掃活動・緑化活動では除草作業を行う事で散策、ウォーキング、景観の快適性が向上しました。また、天願川の遊歩道沿いに桜の植樹を行いました桜並木



道への地域の期待が高まり、遊歩道利用者からは感謝の言葉をいただきました。

11 月 3 日に開催した 5 自治会親睦

運動会では、各地域の子どもからお年寄りまで多世代が一堂に会することにより多面的な交流ができました。

講演会は「トトメ講座」を開催し、40 名が参加しました。実際に継承問題を抱えている方々もおり、とても参考になりました。



各自治会の行事や学校行事との調整が難しい事もありますが、5 自治会親睦運動会を核のイベントとして継続的に開催し、あわせて講演会等の文化事業、その他地域イベントの支援を検討していきたいと思っています。

③「環境」づくり事業【浜区自治会】

周囲を海に囲まれた緑豊かな島、浜比嘉島。現在は橋も架かり観光客も多くなりました。浜区は大昔から「神の宿る島」とも言われています。しかしながら、島内にある東ウタキ周辺は普段はあまり入ることがないため雑草などが生え、景観を損ねていました。そこで、周辺にある石積みあたりの雑草を刈り、草花を植え、ウタキ周辺には雑草が生えるのを防ぐための砂や砂利をひき、芝生を植える美化活動を行いました。花壇は範囲が広いので、何度かに分けて草花を植えていきました。少しずつ草花が増えて花壇らしくなり、



楽しみながら作業ができるようになりました。以前から気になっていた場所でもあり、昔からの風情があるところなので景観が良くなっていくことは嬉しい事です。

この「環境」づくり事業を行う事で、周辺が明るくなり観光客がウタキ内を見学していくようになりました。また地域の方々の散歩コースにもなっています。景観が良くなったことで、美化運動にも積極的になってきました。さらに景観を維持していくため花壇の手入れや他の場所へも花を増やしていきたいと思っています。



『三流は人の話を聞かない。二流は人の話を聞く。一流は人の話を聞いて実行する。』

超一流は人の話を聞いて工夫する。』 羽生善治

④地域の文化と歴史を伝える子どもミュージカル【特定非営利活動法人りんく・いしかわ】



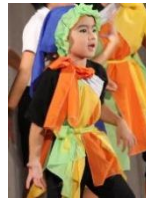
特定非営利活動法人りんく・いしかわは子どもの健全育成、子どもや親、その他支援を必要とする人々がともに楽しめる地・環境づくりに寄与することを目的とし活動している団体です。



今回は宮森小学校のジェット機事故を風化させないように、子ども達が未来に向けて、伝え残していけるように、演劇ミュージカルを作り、宮森小学校の慰霊祭に披露しました。



音楽が好き、ダンスがやりたい、演劇にチャレンジしたいという子ども達が集まり、公演のための練習



を行うと同時に舞台上で使用する衣装や道具等も保護者とともに作りました。

練習や準備、公演をとおして一人ひとりの創造性、自主性を身につけ、仲間とのコミュニケーション力を高めることが出来ました。

また、ミュージカルの内容をとおしてそこから見えてくるもの、平和とは何かを考えるきっかけづくりになりました。

6月30日の慰霊祭終了後も活動を続けています。



⑤障がい児家族ふれ合い事業【ゆんたく広場さくらんぼ】

「ゆんたく広場さくらんぼ」は、障がいをもつ子の親が集まる場をつくることで、お互いの情報交換を行い、育児に対する不安を解消して、より良い育児が出来るようになることを目的に活動しています。

現在、集まっているのはお母さんが多いのですが、普段あまり子育てに参加できないお父さん達にもぜひ



他の家族や子ども達と交流を深めて欲しいという話になり、今回お父さんも一緒に楽しめる企画としてホースセラピーを開催しました。

参加したお父さんからは「自分の子は馬に乗れない、友達と遊ぶこと

ができないと思っていたが、少しずつだが、馬に触れ、馬に乗り、お友達と遊ぶ姿を見て、子どもの成長を直に感じる事ができた。もっと子育てに関わりたい。」という感想を頂きました。



お父さん同士の時間をもち、交流を持ったことで、子どもの障がいに関する理解が1歩前に進みました。

お母さんの仲間づくりも必要ですが、同じくらいお父さんの仲間づくりも必要だと感じました。

⑥地域活性化ネットワークづくり【東山自治会】

子どもたちや若者が減少し高齢者が年々増加する中で地域活動の機会も少なくなってきました。そこで自治会を中心に地域住民はもとより地域にある施設等とも連携したイベント開催を行い地域の活性化を図ることを目標に今回の事業に取り組みました。

清掃活動ではこどもから高齢者、地域の障がい者施設の利用者も一緒になって身近な場所の清掃を楽しむ行いました。この月1回行っている清掃活動が地域での連携づくりに役立ったと思います。

東山飛龍は中学生を中心



に痛んだ箇所を修復し、約6年ぶりに開催した「東山夏祭り」で、15年ぶりに冬眠から目覚めてみなさんに披露されました。夏祭りだけではなく、宜野湾市で開催された羽衣まつりのかちャー大会にも参加しました。



様々な活動をとおして地域住民や地域を利用している人達が参加し、会を重ねるごとにみんなが積極的に活動するようになり活性化につながる事が出来ました。自治会活動は住民が必要とする活動を取り入れていくことが求められていることを実感します。

⑦第2回たかはなり大人と子どもの自然学校観て・触れて・遊んで・つながるたかはなり島

【特定非営利活動法人マツノEクラブ】

たかはなり島(宮城島)は豊かな自然や遺跡、文化等、自然体験学習にとっても適した場所です。その魅力を活かし「大人と子どもの自然学校」と題して様々な体験学習を行いました。

自然体験学習として夏休み期間中に、「オカガニ観察会」「たかはなり自然観察会」「サンゴ礁イノー観察会」「漆喰シーサーづくり」を開催しました。



オオガニ観察会では足を踏ん張り全身を震わせて抱卵する様子には、あちこちから感激の声が聞こえたり、自然観察会では参加した親子が一体とな

って石灰岩の山、起伏の激しい岩間を汗して散策しました。

「たかはなり島にひまわりを咲かそう」では休耕中の畑を整地し、6月に地域の児童館の子ども達と保護者で種まきをし、8月には観察会を行いました。



地域の方々と共同で事業を行い、宮城島の魅力を再発見できました。今後も活動を継続し、地域住民のスキルも活用して内容を深化させていきたいと思っています。

『人は誰でも種々様々な能力を持っているものなのに、

多くの人ほど優れた能力があるかを知らずにいる。』

盛田昭夫

⑧子育て情報パンフレット制作事業【うるま市子どもを育む会】



子育てをしている保護者のために保育園施設を実際に取材し、保育の方針、習い事、保育料、開園時間等をまとめたパンフレットを作成しました。



今回は、市内十七保育園を実際に取材させていただきました。このように情報を具体的に紹介した媒体は今のところないので、保育園探しをしている保護者にとって良い情報提供ができたと思っています。パンフレット作りは、各施設めぐりが難しく、なかなか代表者と対談の時間をとる事が大変でした。もっと時間にゆとりがあれば、障がい児を受け入れている施設や、そこを必要としている保護者への情報も取り入

れる事ができ、もっと意義深い資料が出来たのではないかと思います

「特別なことはしていない」と言いつつも、活動を具体的に聞いていくと、面白い活動がいろいろ出てきたり、柔軟的な考えを聞くことができ参考になりました。しかし、そのような特色を紹介するホームページ等がない園も多く、今後はパンフレットの内容をサイト等でアップロードして、パソコンやタブレット端末で誰でも見れるようにしたいと考えています。その際は今回取材できなかった園も加えていきたいと思っています。



⑨うるま市地域振興・活性化の為に民泊事業に関する説明会【特定非営利活動法人禮之会】

本事業は、うるま市での初めての民泊受け入れにあたり、民家の募集から受入れまでの事前準備を進める為、各地域の自治会を中心に、民泊受け入れへの共通認識を図っていくための、民泊説明会を実施しました。



説明会ではうるま市作成のDVDを使用うるま市の魅力・体験学習としてできる内容などについて話し合いをおこないました。また、うるま市における地域活性化において民泊がどのような形で地域に根差していくのかを調査し、今回の事業を今後の民泊受入

れに繋げていくために報告資料を作成しました。民泊に関しては先進地域の事例で内容の理解が少しあるものの、うるま市民泊の開始に関して地道な説明が必要であることがわかりました。また、参加者より今後も保険に関する説明会を実施して欲しいとの声があるなど実際の事例により、どのような対応が出来るのかを周知し、民泊講習会を重ねていく必要性を感じました。今後は民泊を通じた人財育成など他分野にわたる地域の活性化や伝統芸能・伝統文化の継承など進めていきたいと思っています



⑩大人と子どものための「性」と「いのち」を学ぶ講座【いのちの根っこを育てる会】



どの子どもも大事なかけがえのない存在だと心から伝えられるように「性」「いのち」の学びを行いました。

大人向けの性教育講座は180人余りの参加を頂き「いのちの根っこが太くなるお話」と題し、HIVの現状、性的マイノリティについての講演を開催しました。参加者からは「知らなかった性の問題を身近なものとしてとらえられる良い機会になった」「性ということだけでなく、『人』としてどういう風に生きるか、行動するか問われた気がした」など多くの感想をいただきました。



性教育講話として、これまでに学んだ内容を活かして、助産師でもある弊会会員が具志川商業高校で思春期講座を行いました。全校生徒600人という大集団にも関わらず、真剣に耳を傾けてくれました。学童向けのワークショップでの産道体験では、子宮のゆりかごからなかなか出たがらない子や産道トンネルを早く出てくる子、それぞれが個性的に楽しんでいました。今後は地域で「いのち」をキーワードに点と点が線となり、面となってツクファンマインドある地域づくりに深く関わっていきたいと思います。



⑪サガリバナ植栽事業【新赤道老人クラブ】

公民館前の広場にサガリバナを植栽し、花咲く時期に区民や子ども達に呼びかけて観賞会を開くことにより地域の活性化に結びつけたいと思いこの事業を計画しました。植栽の作業では、ユンボ機の投入前の草刈で手作業、力仕事に不安を抱き、無事植栽出来るのか心配になりましたが、ユンボ機を投入して整地を終える頃には自信がわいてきて、生きがいと喜びを感じました。作業の合間には



「元気なうちにサガリバナが見られるかな」という冗談もちらほら聞こえてきましたが、次年度に十本前後は

花が咲くだろうと推測します。

反省点としては、若い世代にも参加してもらい一緒に植栽を行いたかったのですが、その機会を設けることができなかった事です。

しかし、サガリバナは希少価値のある植物であり成長するに従って区民の注目の的になり、中部の一大名所になると思います。年々成長を続けるサガリバナは次世代の子や孫が成長するがごとく、将来に素晴らしい贈り物ができたと自負しています



『みんな、人を喜ばせる事が嬉しいわけだから、

みんなで喜ばせっこをすれば世の中うまくいくはずなんだけどね。』

やなせたかし

⑫有機農作物栽培【有機自然農法を考える会】

生命を支える農作物は安全、安心であるべきで無農薬自然農法の作物は人に優しく、農薬を使用しないことは自然も汚しません。



牛ふんや生ごみ、腐葉土を使用した堆肥を利用する循環型無農薬自然農法を体験してもらうことで地域のみなさんに有機農法の良さや食の安全について知って頂ける機会になったと思います。肥料は牛ふんと生ごみを発酵させてから畑へまきます。今回の事業では肥料を発酵させている間に生ごみ目当にカラスやわしがやって来て野菜を食べるシロガシラを近づけ

ないという意外な効果もみられました。

ジャガイモの植付には保育園に通う子どもたちも一緒行いました。初めて土を触る子、植付を行う子もあり、ジャガイモ掘りの約束をし、後日収穫となりました。

反省点としては活動の範囲が広げられなかったこと。循環型自然農法が広く地域の人に理解してもらえるように自治会や子ども会への広報など、オープン菜園として地域とどう関わっていくか考えていかないといけないと感じました。



⑬地域住民のための防災意識向上事業【うるま市消防団員志川分団】



うるま市消防団では遭遇した現場で、消防職員が来るまでの間、適切な対応をいち早く行い、重大な結果を防ぎ、職員へつなぐ事が出来るよう、自主的に訓練を行うのと同時に市民の安心・安全と生命・財産の被害を最小限にするための啓もう活動も行っています。

炊き出し訓練では災害時に対応出来る「炊飯袋」の使い方について勉強会を行いました。東北の震災を経験して非常時、電気が使えなくなり、水も貴重になります。炊飯袋はご飯を作ることが出来、器を使う必要がなく真空パックになるので、2、3日保存が出来る

いう優れものです。「炊飯袋」でご飯だけではなく、おかずやスープ類も出来ないか私たちなりに試してみたところ、色々なメニューが出来ました。

消防団活動としては、うるま市は活発で、明るく団結心があると他の市町村の方からも言っていますが他の消防団の若返りを感じ、うるま市も若い団員を募集しなくてははいけないと思いました。



今後も消防団員としてのスキルアップと、市民の自主防災意識を高める、広報活動を展開していきたいです。

⑭地域美化環境と安心安全な地域づくり事業【黒木ロードちゅらみち会】

黒木ロードちゅらみち会は市道105号線沿いに位置する川崎、西原、兼箇段、平良川の4自治会で連携し、市道の黒木の剪定を住民が主体となって取り組み、地域に愛着をもち、地域間の交流を深め、安心安全な地域づくりを目的として活動しています。

今回は専門家からの指導を受けながら、剪定の技術の向上、地域人材の発掘と育成を目指して事業を実施しました。

作業の際は、作業場の安全確認を行い、木の形、枝の張り具合を確認



して切る枝、残す枝について講師から説明を受け、剪定を開始しました。

作業の回数を重ねるうちに、ある程度は自己判断で剪定ができるようになってきました。

事業を行う事で各自治会の交流が図れ、歩道も明るくなり、夜道を照らす防犯灯も枝に邪魔される事もなく、安心安全な地域づくりに貢献できたと思います。また、市木である黒木の大切さを知る良い機会になりました。今後は月に1回程度の開催で無理せず活動していきたいと思っています。



⑮秋のあやはしフェア・ブック交換 in あやはし・石川文洋写真展【あやはしフェア実行委員会】

今回の事業では各島々を拠点とした「島巡りスタンブラー」「ブック交換会」「石川文洋写真展」を同時に開催しました。

島巡りスタンブラーでは島しょ地域を訪れる人たちをどのように迎えるか、地域の人々が力を合わせ、島の魅力をアピールすることで、地域としての力が備わってくるものと考えています。イベントの開催に向けた活動が地域の団結力を高める役割を果たした



と思います。

ブック交換では子どもたちが自分の好きな本を持ち寄り、お互いに本を交換致しました。本とのふれ合

いを深める場にもなり、あやはしフェアの中で今後積極的に取り組んでいきたいと思っています。

石川文洋写真展は、石川文洋氏のご好意で写真展の開催が出来ました。1970年代の与勝地域が大きく変化していく時代の写真を見た多くの参観者があの頃を懐かしみ、写真の中に知人を見つけては談笑するなど、大きな効果があったものと思います。

今後は、海の駅あやはし館と地域分散型とを相まぜながら地域振興、地域活力の強化など各自治会の連携を深めながら取り組んでいきたいと考えます。



「続けること」が大事なのではなく、「続けられる方法」でやるのが大事です。

「楽しくやる」ことが肝心なのではなく、「楽しくやれる方法でやる」のが肝心。

原口 證